

Dental Labor GmbH Gross

高瀬 直

「明日から役立つ歯型彫刻」

【抄録】

しばしば「かつて歯型彫刻を行ったものの、日々の臨床に直結しなかった」といった声を耳にする事がある。

これは歯型彫刻が敬遠される理由の一つとして最も多く挙げられるものであり、他にもスクラッチ（切削）によるトレーニングは臨床的でないといった声も根強い。

例えば歯型彫刻と言えば見本模型を模倣（模刻）することが一般的だが、これは特定の形態こそ覚えられるものの、臨床における応用力を欠く傾向にある。

加えて模倣の能力ばかりが向上し、体得した技術が実際の臨床では活用場面が少ないといった懸念もある。

しかし歯型彫刻が臨床技術上達の為のトレーニングとして優秀であることは、筆者は勿論、先達の経験からしても明白である。

ただしその効果が臨床に直結し反映されるものとする為には、機能的な構造や清掃性に関する知識等が必要とされることを知っておかなければならない。

そこで今回は実際の歯型彫刻を通し、歯牙の持つ機能的な形態や清掃性に関して話をしたいと思う。

当講習が全ての受講生にとって有益となれば幸いである。